

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

鳩谷三太郎
勸業館
上

知非齋高田先生筆記
鈴木頂行大又所説



鳩谷三志公羽勸善録

2767

東都

文生堂
耕文堂
全梓

年時ぬこきふに東一まわを
ぬひてよりふけしきふを
たわねるいせなるけの教を
きくをきくはるいせなるけ
きくはるいせなるけの教を
きくはるいせなるけの教を

[illegible]

吾子一賀子恭和知則其為政は
 一耳目にこそはきよ板をきりて
 廣のきよもい動きの政は
 國の功字をのこるあま
 いそゆ一なまひてんやとちあ
 年い智をくほにきあのき

あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり

あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり
あまーちふいふうねまたり

やい美しき神子、おはあ
り子とて侍ふ事なりと云ふ
る。この忠孝貞節のあらわ
すかゝりたる御方と云ふ
こと、かく勅を賜へり。希
ふに、これに當るといふ
べし。

道子殿、さうたぐりのづゝめが
 そと花ひくゝるよお議ぬやそ、
 知則君のあわーき中のは
 うねふしつゝとてわづはりきえと
 めいをまゐらんぞめ、ばき説
 書なむして、惜愼の目なり

六 同国田戸辺村の三子左衛門が孝心あり

七 同国定間村れもん女が孝子

八 同国下志保村の名も半七が孝子

九 同国筑波郡大形村れん左衛門が孝子

十 同国水戸川田伏村のこん女が孝子

十一 同国水戸南川田本被谷村れん左衛門が孝子

十二 同国水戸川後井村れん三郎 同方れ清五郎

支ぬが孝子

十三 同国下館川下志保村れん幸左衛門が孝子

れり

十四 同国新谷村れん左衛門が孝子

十五 同国網下村の後家ふみが孝子

十六 同国新が崎れん村次郎八丈ぬ同人れり

忠孝義勇女の枝りどが孝子并男女あり

勸善録卷之上

東都

知非齋源與清文儒著

門人

赤松知則

同 常政 校

●いさらのくにさうりやうしやげ 乃陸国土浦領柏毛村の名る倭た藩ハ廉直れんちやくれぞんごん人

なり。けい乃ハ關意けいなり年貢ねんぐをなさんこととて

せしにより地改ぢきより手貢てい皆減くわいさいれくわいせよを給たまふこと何

まねびかり。その給減くわいさいを自己おのれの費用つひめいとせむ農耕のうかう

れ具ぐとてのて。村内むらうちれ百姓ひやくしやうは主しゅから何なんハ国君こくきみ

のかへけちをよとふけり。さへ農のうに於おけ

忠孝のたてを教さすけり。今い菊松万吉丹次久吉。お
吉。飛松。飛吉。佐郎吉。後太郎。直太郎。右太郎。安太郎。
もやまて。ふちま。なと。は。め。と。て。十五歳以下
れ。男。女。児。れ。孝。行。志。い。と。お。か。り。と。ぞ。

③同村の文次といへる。い。高。い。づ。れ。れ。お。系。に。て。解。業。を。志。
と。世。に。た。り。頼。り。けり。その。心。さ。ま。ま。う。く。て。老。人
れ。捨。て。く。や。ー。あ。る。れ。義。父。荒。達。と。も。信。ね。行。き。て。
得。ま。れ。人。馬。を。あ。ぬ。れ。ま。う。に。何。は。く。頼。り。けり。後
に。い。く。る。の。う。い。は。付。て。古。い。は。な。か。れ。び。新。い。は。義
父。も。文。次。は。能。て。面。具。を。た。れ。人。を。さ。く。い。は。る。の。

お。か。り。けり。い。文。次。が。子。に。あ。を。弟。と。て。ま。づ。か。よ。十。歳。の
ま。う。り。父。母。心。教。の。旨。何。り。て。日。中。い。お。断。食。れ。り。と。は
と。め。け。る。と。み。て。い。や。父。母。ハ。日。夜。家。業。に。か。い。れ。た。ま。う。
お。か。り。て。半。日。断。食。を。た。ま。う。と。た。り。よ。か。ー。我。ハ。も
お。れ。一。事。と。つ。と。む。る。お。れ。ハ。障。に。あ。へ。か。づ。べ。と。り
父。母。に。か。さ。り。ま。あ。て。て。断。食。の。お。を。つ。と。む。へ。と。は
け。れ。ば。父。母。も。さ。ら。に。苦。し。む。と。お。い。せ。と。り。許。し。て。代
ら。ー。め。けり。と。ぞ。

④同族の岡村れ。忠。右。衛。門。ま。ゆ。い。と。若。心。れ。ま。と。も。ち。り。
お。か。り。に。て。あ。ま。い。に。夜。合。と。め。む。と。何。と。い。ま。う。

もやぞ^{おそて}神よにかりほかな^{かな}みければ^{おそい}祖母もふりもなれが
 かくて^{ちのなにか}十八ふぶ^{みちう}ぶ^うもれご^や屋にさぐまりぬ。さるもれど
 に父某^{ちのなにか}の陸奥へ^{みちう}おもひ^はんと様^はう^はらひ^はく^は出^はえけ^は
 う。やめてうそ^う目に^うも^うさ^うない^うもの^うも^うも^うん^う老^うたる^う母に^うま^う
 れ^おを^お告^おんと^おて^おか^おれ^おた^おご^おや^おれ^おお^おて^おう^おり^おん^おい^おれ^おた^おる^おは^お。
 と^おも^おさ^おい^おの^おも^おや^おく^おん^おと^おが^おて^おう^おう^おま^おや^おち^おう^おが^お
 かり^おた^おも^おさ^おい^おの^おも^おや^おく^おん^おと^おが^おて^おう^おう^おま^おや^おち^おう^おが^お
 け^おる^おは^お父^おも^おお^おえ^おい^おも^おご^おかり^おに^おお^おま^おう^おも^おせん^おか^おた^おな^おけ^おれ^おバ。
 ち^おこ^おに^おい^おが^おて^おう^おに^おか^おう^おも^おご^おく^おべ^おけ^おれ^おバ^おお^おう^おう^おう^お
 祖母^おも^おさ^おい^おの^おも^おや^おく^おん^おと^おが^おて^おう^おう^おま^おや^おち^おう^おが^お

をみて泣く。いふはけり。そこは居るにせむ。さうこれありと
もをみてよと泣く。いふはけり。父もふづう。うらやま
れ出。かどきもいふ。また。おたつ。うらやま。いふ。いふ。いふ。
うらやま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
うらやま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
も。うらやま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
おれ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
も。うらやま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
幸れ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
娘も。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

心にあり。同村に久た居る。を。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
早。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
れ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

同村に久た居る。を。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
けり。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
つ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
右。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

てかり。またその時より制れ下の事を毎月三日に
およぼし除く。とてつとめて。おちやけれ授の旨をやり
つゝみけりとなんか。と。若人おれば又若人れ敏繁七
と。耳にとりたるをうべし。

よりし諫はたたびいさよふにむしるに善志にいかりぬといへり。

●同族下るは村れ名もまじきなり。欲心なくしてあるは国恩をむくいなうんことをねがふをばれ小岩田村にあらぬれ義慶田なりて。くもやうにふとあしけれど一井ぬりーとまじき心とあまにびーて文化あまうり文政二年より。十二年にむに壑ひらぬ。まじき九十九名八株余れ良田とあまうり。まじき永田村にて百余年義慶の田サハふ計とあまにぬ。又村ゆする名余れ早田なりーに。そにちりぬ

●同族下るは村れ名もまじきなり。欲心なくしてあるは国恩をむくいなうんことをねがふをばれ小岩田村にあらぬれ義慶田なりて。くもやうにふとあしけれど一井ぬりーとまじき心とあまにびーて文化あまうり文政二年より。十二年にむに壑ひらぬ。まじき九十九名八株余れ良田とあまうり。まじき永田村にて百余年義慶の田サハふ計とあまにぬ。又村ゆする名余れ早田なりーに。そにちりぬ

●同族下るは村れ名もまじきなり。欲心なくしてあるは国恩をむくいなうんことをねがふをばれ小岩田村にあらぬれ義慶田なりて。くもやうにふとあしけれど一井ぬりーとまじき心とあまにびーて文化あまうり文政二年より。十二年にむに壑ひらぬ。まじき九十九名八株余れ良田とあまうり。まじき永田村にて百余年義慶の田サハふ計とあまにぬ。又村ゆする名余れ早田なりーに。そにちりぬ

●同族下るは村れ名もまじきなり。欲心なくしてあるは国恩をむくいなうんことをねがふをばれ小岩田村にあらぬれ義慶田なりて。くもやうにふとあしけれど一井ぬりーとまじき心とあまにびーて文化あまうり文政二年より。十二年にむに壑ひらぬ。まじき九十九名八株余れ良田とあまうり。まじき永田村にて百余年義慶の田サハふ計とあまにぬ。又村ゆする名余れ早田なりーに。そにちりぬ

くれえれさぐみそひとをりぬ。父母会供なりを
て毎敷父れだるる画。母れだるる画念供せふべ。
また兄の恩にむくいんが。めとてふれは。必これ
といへり。

同國水戸南谷村に侍る者といふものなり。妻
と名の女といふ十六歳に老母につかひて孝ををつく
しけり。或人まぬれものが田植の時ん一に。妻ハ母を肩ひ。
まハ苗と違ふ苗とて。あひひれた。古れ唐笠に紙とを
て日蔽れ具と。その下に母を居ら。茶烟草など
は。てなぐとあけり。母も農業をせければ。まぬれまの田

うへるまをみて。いと楽く喜びけり。かくも母
れ。ふと。或人。逃て。親を。死に。肩ひ。る。を。た。け。ど
田畑よ。肩ひ。る。ま。は。づ。じ。は。き。居。る。ま。い。い。母。を。あ。や。り
は。と。ふ。の。ち。り。と。い。ひ。け。る。と。妻。の。女。は。て。老。人。ハ。ま。だ
と。と。は。い。い。う。や。に。あ。ま。や。か。れ。と。放。蕩。者。ハ。成。つ。た。い
と。れ。な。一。人。れ。を。母。を。れ。ハ。心。傳。に。あ。ま。や。か。願。め。ん。と
母。と。は。な。ふ。ま。か。せ。だ。ん。と。い。へ。け。る。は。逃。れ。る。人。も。教
と。あ。め。は。と。因。け。り。と。な。ん。

同水戸南谷村に侍る者といふものなり。妻
と名の女といふ十六歳に老母につかひて孝ををつく
しけり。或人まぬれものが田植の時ん一に。妻ハ母を肩ひ。
まハ苗と違ふ苗とて。あひひれた。古れ唐笠に紙とを
て日蔽れ具と。その下に母を居ら。茶烟草など
は。てなぐとあけり。母も農業をせければ。まぬれまの田

れいのほととこ。本ふざれて本縁代れ令辨をあらん
 障。一々あ母これを熱て進出さんといふ。とよいたく
 けげた熱て自己れ衣二と父にすめ。これとあて
 本縁代れ令と祖母根よまうたすへといひけ。祖母
 笑つて。や正月も付たに。それ衣敷なくい何と
 う思ふ。これとよ。とよ。正月はかりぬさ
 糸へあること。正月はれ。かた。このりあて。業せん。ハ。
 衣敷なくとも。と。け。代れ令と。父
 れ。や。と。件。た。ひて。ひける。祖母も
 の心は。遂。父と。件。けり。それ後と。お。

毎夜五十通れね。とつとむれ。父のほ癖を止
 ち。一。一。日れ。合。一。拍。教。と。と。お。い。て
 二。日。は。れ。と。い。か。く。も。お。せ。び。ほ。れ。は。縁。ら。う。て。と
 一。が。や。り。教。を。ひ。け。す。に。お。く。い。ぬ。と。い。か。と。家。内。の
 ち。お。び。一。か。う。か。く。も。よ。と。う。れ。う。う。へ。け。れ。バ。祖。母
 父。母。と。も。に。お。お。と。う。た。い。ま。じ。初。め。れ。も。に。て。こ。七。日。の。合。令
 セ。バ。多。と。そ。こ。た。の。ん。と。疑。け。一。さ。ら。ハ。は。よ。か。と。う。て。家。内。れ。お
 各。一。七。日。れ。合。令。一。と。う。心。を。起。一。これ。う。り。後。ハ。父。も
 ほ。と。林。ふ。て。家。内。と。た。く。一。て。勝。ま。一。け。け。り。と。ち。ん。

同从彩谷村れを右邊つが娘くらハ。十八歳にて人れ家の

小衣二と出して。小兜は纏ひせけるは。其あひせしもの
候と流しと。お嘆しけりと言ふ。

彦ハコと。ち衣え
 一々ツツお嘆なげ
 一けりとさん。

① 同国筑波山麓の洞下村にあり。あみとふ後家あり。尚
 四十を過して老たる母と初生子とをばぐみりて。
 いとふ^{すが}く^いて^いけり^い或^い時^いを^い母^い目^いれ^い病^いを^い起^いて^い盲^い目^い
 に^いち^いら^いぬ。ふみ^い重^いき^いを^いた^い時^いは^いと^いた^い山^いに^いり^いて。庭^い桑^い枯^い枝^いを^い
 どり^いり^いも^いて。己^いハ^い糸^い探^いす^いが^い。火^いた^いた^いり^いて^い母^いを^い何^いだ^い
 し^いぬ。叔^い母^い衣^いも^いけ^いと^い着^いけ^いれ^いど^い。と^いう^いか^いさ^いぬ^いべ^いれ^いど^いも^い
 なければ。母^いれ^い其^いの^いひ^いえ^いだ^いる^いも^いり^いい^いま^いが^い肌^いに^いて^いあ^いた^い
 め。さ^いて^い早^い夜^いや^いど^い纏^いて^いい^いた^いり^いけ^いり^い。ま^いた^い母^いれ^いに^い

